

能登町立鶴川小学校 令和3年度学校評価 評価資料 教員等アンケート

最終評価(12月)

●「R3年度 第2回学校評価自己評価」のための評価資料①(アンケート)

	内容	評価	評価方法・指標	取り組み内容等	今後に向けて(成果・課題)
1	ICTの効果的な活用と板書のバランスを考え、わかりやすい授業に努めている。	AB 100%	●活用頻度 A:ほぼ毎時間 B:ほぼ毎日 C:特定の教科のみ D:あまり活用していない	活用方法【教科:活用場面】 ・教科(すべての教科で) ・学習過程(つかむ・考える・深める・まとめる) ・Jボード・クラスルーム・写真・インターネット ・その他(Forms、ドキュメント、スライド)	◎タブレットの活用で、児童の意欲が高まる。ノートには自分の考えを書けない子も、タブレットを用いると書ける。 ◎児童もタブレット操作に慣れ、操作面で授業が滞ることが減ってきた。 ◎資料を大型モニター、児童のタブレット、掲示のどれで示すか、残すかを使い分けできた。 ◎たくさん使ってみたことで、効果的な使い方が少しだけ見えてきた。ICT支援員と連携して必要なアプリをどんどん導入したり、紹介したりして「効果的な幅」を広げたい。 ◎学年に応じたパワーポイントで作成した教材をとり入れることで、児童の興味関心を引くことができた。 ◎国語科では、大事なところに線を引く活動をした。ペーパーでは、色の線を消すことができないが、自由に消すことができたので、子どもたちの抵抗がなかった。算数科では、かけ算の意味の場面でははじきを画面上で動かすことによって、有効に使うことができた。 △タブレットを使うことが目的になってしまった授業もあるので、ねらい達成のために考える、深める場面での効果的な活用方法を考える。 ・授業のねらいに応じて、ノートに書かせる場面との使い分けをする。 ・タブレットの持ちかえりを進めてノート代わりにできればまだまだ「効果的」の幅を広がる。
2	漢字コンテストで目標通過率(90%以上)を達成できている。	AB 100%	合格点【90点】達成率 A:90%以上 B:80%以上 90%未満 C:70%以上 80%未満 D:70%未満	コンテストに向けての取り組み 20問ごとに区切ったミニプリントを用いて練習。 間違えたものを繰り返し練習させる。 コンテストに出題される漢字を家庭学習や授業時間を利用して取り組んだ。	◎児童は目標をもって意欲的に取り組んでいる。 ◎本番まで計画的に進めることができた。 ◎間違えた漢字を正しく、大きくお手本として示すことで同じ間違いが減った。 ・定着できるように、定期的な同じ問題に取り組ませたり、家庭学習で漢字を出題したりする。
3	計算コンテストで目標通過率(90%以上)を達成できている。	AB 100%	合格点【90点】達成率 A:90%以上 B:80%以上 90%未満 C:70%以上 80%未満 D:70%未満	コンテストに向けての取り組み 大問ごとに区切ったミニプリントを用いて練習。 間違えたものを繰り返し練習させる。 コンテストに出題される計算の授業時間や家庭学習で取り組んだ。	◎忘れかけている前の学習を集中して練習でき、定着につながっている。 ◎本番まで計画的に進めることができた。 △合格はしたものの簡単なミスが多かった。 ・その期間は解けるが、間が離れたら解けない子が多いので、抜き打ちで何回も解かせて定着させる。 ・1、2学期のコンテスト問題も忘れないように繰り返し宿題などで出す。
4	家庭学習の内容や方法等具体的に指導し、家庭学習の定着に努めている。 *1年:20分、2年:30分、3年:40分 4年:50分、5年:60分、6年:70分	AB 100%	学年目標時間達成率 A:90%以上 B:80%以上 90%未満 C:70%以上 80%未満 D:70%未満	家庭学習週間の各学年の目標時間達成 その日に学習したものを宿題に出して復習できるようにしている。 友だちの自学ノートをいつでも見ることができるようにし、まねしながら学習に取り組む子も多い。	◎家庭学習強化週間は時間を意識して、集中して取り組んでいる。 △強化週間以外は、学校で宿題をしていくこともあり、家庭学習時間が短い、テレビを見ながらだらだらな子もいる。 △個人差が大きいので、宿題のみでどのくらい時間がかかるか把握して、調整すべきだった。 △読書、自学の取り組みの推進。 ・週間でなくとも、30分以上学習するように声かけをしていく。30分に達しない場合は、読書や自学をするように習慣づける。 ・つまづきそうな子には帰る前にフォローし、確実に家庭学習で復習の時間をとれるようにする。 ・3学期は、家庭学習の内容の充実を図りたい。

5	「気持ちの良い挨拶」の習慣が身につくように、肯定評価をしている。	AB 100%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	どのようなことを肯定評価をしたか ・声の大きさ ・相手を見て(目線) ・気持ちを込めて(表情など) ・語先後礼 ・その他(自分から)	◎語先後礼のあいさつが習慣として身につけている。 ◎他の先生から褒められたことを伝えることで、児童の意識が高まった。 ◎社会科見学やプールなど、学校外でのあいさつがしっかりできるようになった。 ◎記録をとるものは、昨年の記録と比較させて目標を決めさせた。 △自分に合った目標設定ができない児童がいる。 △決められた場所以外、来校者へのあいさつなどは戸惑っている子があるので指導していく。 △特定の場所・時間帯でしか挨拶できない子は一定数いる。 ・気持ちの良い挨拶ができるように日常的に声かけを行った。3学期は、言われた場面ではなく、自分で考えて挨拶ができるように、どのようなときにどのような挨拶をするか、指導したい。
6	勉強や行事等。各自に目標を持たせて、粘り強く取り組ませている。	AB 100%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	個に応じた目標の設定や児童の達成状況 活動前に目標設定(練習の様子などをふまえて自分なりの目標をたてさせる) 声掛けしながら目標を意識させ、活動後には振り返る時間をとる。	◎自分の現状を考え、具体的(数値を入れるなど)目標設定がうまくなった。 ◎目標を立てっぱなしにならないよう、定期的に見直したり、意識させたりすることが有効だった。 ◎記録をとるものは、昨年の記録と比較させて目標を決めさせた。 △自分に合った目標設定ができない児童がいる。 △目標が達成できずに、消極的になってしまう子もいる。過程も認められるよう声かけをしていきたい。 ・行事や総合では、課題設定、自己評価ができる最大の場だと思うのでどんどん表現させたい。3学期は余裕があれば、地域に出たい。 ・学期の目標の確認を不定期で行ったので、週末に定期的に確認していき、声かけをする。 ・行事前に目標シート書かせて意識させた。書くことで意識づけになる子もいたので、今後も続ける。
7	相手の気持ちを考えた思いやりの心を育む取り組みをしている。	AB 100%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	学級活動での取り組み内容 毎日帰りの会で、認め合いの時間をとる。 ペアやグループで子ども同士が関わり合う機会をつくり、よいところを認める。 人権週間での取り組み 各教科の活動では、友だちの作品や考えの良い所を言葉で伝え合った。学級活動では、協力して取り組む活動を取り入れた。	◎教師が見ていないところでの友だちのよいところを自然に報告してくれる児童が出てきた。 ◎自分の気持ちを伝える児童が増えたことで、どんな事がうれしくて、嫌なのかをお互いがわかるようになった。 △自分の好き嫌いで、相手によって行動をかえるところが気になる。 △相手の気持ちを想像できないことがある。 ・常に言い続けたい。また、いいところはどんどん帰りの会等で認めていきたい。 ・自分がされたらどう思うかを常に考えさせることにより、友だちへの接し方が変わってきた。
8	児童は、友達と助け合いながら仲良く学校生活を送っている。	AB 86%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	どのような場面でそう感じたか ・授業中…困っている子に教えようとしている。 ・行事等の活動中…高学年として低学年に教えようとしている。 ・児童や保護者との面談から…友だちと教え合うのが楽しいと言う子が多い。 ・生活ノートや作文から	◎困っている子を助け合おう、教え合おうという意識がある。 ◎家で「友だちのことを話すことが多くなった。」と面談で保護者から聞いた。 ◎子ども達は違いを認め合おうと素直にみんなと接している。さらによい関係にして、中学校、6年生へと送り出した。 ◎自分の事だけではなく、他人に目を向けることができる子が少しずつ増えている。 △誰とでも協力できるよう指導していきたい。 △休み時間や休日と授業の切り替えが難しい児童がいる。 ・グループ活動を取り入れた授業を行った。なかよしアンケートで、友だちと活動することが楽しいと書いている児童が多数いた。3学期も意図的グループ活動を取り入れる。 ・授業外でトラブルになることが多くあった。
9	家庭と連携し基本的な生活習慣(早寝早起き歯磨き)の形成を図っている。	AB 57%	◇生活リズムアンケート〔目標就寝時間達成〕 A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学級での指導内容や実態把握の仕方等 気になる児童には、朝の様子を見て家庭での過ごし方についてきている。 歯みがきをしている児童の確認 養護教諭に指導をもらう 学級での指導内容や実態把握の仕方等 保護者と課題が共有できるよう、学年ごとの資料を学級懇談で提示している。ポイントをしぼってアンケート結果を保健だより等で定期的に掲載している。	◎児童や保護者から話を聞くことで、様子の把握ができた。 ◎生活リズムが崩れると、どんな良くないことが起こるかを動画で観て自分の生活を振り返ることができた。 △生活リズムアンケートの信憑性が低い。 △家庭との連携が不十分だった。 △就寝時間が遅く、眠そうにすることがある子もいる。 ・ゲームなどをして、就寝時刻がおそくなる児童がいる。ゲームについての学級指導を行い、生活リズムを整える大切さを授業で実施する。また、朝の会などで定期的に確認していく。

10	家庭と連携し健康な食生活(朝ごはん・好き嫌いなし)の充実を図っている。	AB 100%	◇生活リズムアンケート[朝ごはん] A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学級での指導内容や実態把握の仕方等 気になる児童には、話をきいている。 給食前に声掛けをしている。 入学説明会で直接保護者に現状について話すことができた。2学期中に全学年で保健指導を実施した。 栄養士の方に来ていただき、指導をした。また、給食時に好き嫌いをしている児童の個別指導を行っている。	◎児童や保護者から話を聞くことで、様子の把握ができた。 ◎生活リズムが崩れると、どんな良くないことが起こるかを動画で観て自分の生活を振り返ることができた。 ◎朝ごはんを欠食する児童は少ない。栄養バランスは少しずつではいるが、改善傾向。 △朝ごはんをほとんど食べていない子がいる。水分もとっていない。 △生活リズムアンケートの信憑性が低い。 △家庭との連携が不十分だった。 △低学年であっても、子どもだけで朝食をとる家庭が一定数いる。 ・バランスのよい朝ごはんになることを指導していく。
11	ゲームの時間やネット使用の約束など家庭と連携し、指導を行っている。	AB 29%	◇生活リズムアンケート[ゲーム・インターネット視聴2時間以内] A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学級での指導内容や実態把握の仕方等 アンケート結果を児童にも示して、ゲームなどの使い過ぎによってどんな悪影響があるのか指導した。 特に休み明けは話をするなかでゲームの使用時間を把握するようにしている。 ゲームなどの時間の確認を行っている。	◎アンケート結果を示すことは有効だった。 △家庭でのルールを守りきれないことがある。 △メディア視聴時間の合計が増加している。 △能登町のきまり、学校のきまり、家庭のルールが曖昧である。 △年々、メディア視聴時間が増えている。 ・個人懇談でゲームの時間を守っていない児童がいることが分かったので、3学期に学級指導で指導を行う。
12	体力アップ 校 プランやスポチャレ等による体力向上の取り組みを計画的に行っている。	AB 100%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	学級での体力向上の取り組み内容 体育の準備運動の一つとしてスポチャレに取り組んでいる。	◎スポチャレは他校とも勝負しながら目標をたてて取り組むことができ、児童がとても意欲的。 ◎新記録を出すためには、どうすればよいか(技術、声かけなど)を児童同士で話し合わせることで意欲が高まった。 ◎「8の字」「シャトルボール」の両方ともチャレンジで、ゴールドとなった。3学期も定期的に行う。 △休み時間、タブレット使用によって体を動かさない子が固定している。 △体育担当として日頃から他の先生方への声かけが少なかった。
13	児童理解の会での共通理解や共通指導を徹底し、児童のより良い人間関係の構築に努めている。	AB 100%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	・報告した後に担任外の職員ができそうなことを考えられる	◎先生方が児童の細かいところまで記録に残してくださっている。 ◎児童理解の会で、自分の学級以外の子の様子も知ることができている。 ◎児童理解の会で、他学年の状況を知る事で関わり方を変えることができた。 ◎配慮が必要な児童についてはスクールカウンセラーと連携し、個別面談を行うことで具体的なアドバイスを受けることができた。 ・実際に担任をしないと分からない点があるので、より具体的に伝え、共通理解を図っていく。
14	学習面において、個に応じた指導を行っている。	AB 100%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	個別指導を行った教科・内容・時間帯 ・国語(漢字)(ローマ字)・算数 ・登校後～朝の会・昼休み・帰りの会后～下校 ・どの教科においても、考える場面で個別指導を行った。 放課後に算数科の定着を図るために指導を行った。 ・国語・算数・図工・生活・道徳などで自分の考えが持てるように友だちに話す前に担任と一緒に考えた。	◎個別指導によって、授業だけでは理解できないところを補っている。 ◎休み時間にわからない問題を聞きにくる児童が少し増えた。 ◎繰り返し個別指導を行うことで、「テストの点がよくなった。」「子どもが良くなった。」という声が聞かれた。3学期も個別指導を行っていく。 △できるだけ休み時間は確保できるようにしているが、追いつかないこともある。 △授業からもっとしっかり見取りをしなければならない。
15	子どもの特性を理解し、困りごとを解決できるように支援している。	AB 100%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	どのような困りごとを解決したか ・学習面…分からないところを個別に教える ・友達関係…トラブルの解決方法、トラブルにならないようにする方法 ・家族のこと…困っていることの話聴くようにしている。 ・その他()	◎困っていることを相談しやすいよう、声をかけるなどしている。 ◎児童から訴えがあった場合は、なるべくすぐに対応し、解決するよう努めている。 ◎なかよしアンケートの結果から個別に話を聞いたり、校長先生や先生方にも話を聞いてもらう機会があった。 △自分から相談できない子も気をつけてみる。 △大人が見ていないトラブルの際、言い分がズれているときの状況把握に時間がかかる。 △児童の反応を見ながら、待ちの姿勢をとることが多かったが、我慢強く待ちすぎた。 ・今後も困りごとを児童任せではなく、教師がお互いにすっきりとした気持ちでいられるように指導をしていく。

16	子どもの自己肯定感を高めるための取り組みや肯定評価に努めている。	AB 100%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	学級や児童会等の取り組み 学級…認め合いの時間 みんなの前で認める 児童会…ありがとうの木、スポーツふれあいタイム ・学習面では、その都度、コメントを書いた。児童会士の認め合い活動も行った。帰りの会で、当番の児童に向けて良い所を伝える活動を継続している。	◎認め合いの掲示は有効だった。うれしそうに見ている子が多い。 ◎全体の場で褒めたり、ノートコメントで褒めたり、その子や場面に合わせて褒め方を考えている。 ◎他学年と関わる中で児童自身が自分の良さや成長を実感できるようになってきた。 △当たり前に行っていること、続けてできていることに対して、認める声かけが少なかった。 ・自信がもてない子にも粘り強く肯定的な声掛けを続けていきたい。 ・自己肯定感が上がっているが、忘れる児童もいるので、繰り返し良い所を伝えていく。 ・褒めるといことを忘れてしまう時もあるので、1日1回は褒めることを意識する。
17	避難訓練を通して非常災害発生時の避難行動の仕方を身につけさせている。	AB 100%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	避難訓練 火災・不審者・地震津波・土砂災害・弾道ミサイル	◎毎年繰り返すことで、どんな行動をとったらよいか身に付いている。 ◎事前指導、事後指導を効果的に行うことができた。 ◎避難訓練の目的と重要性を事前指導で行ったので、年度当初より、真剣に取り組む児童が増えた。 ◎実際に体育館で体育の授業中に地震が起きた際、避難訓練通りの行動ができていた。 △危険さを伝えることで、不安を煽る結果となった児童もいる。
18	保護者が連絡、相談したことに対して、誠意を持って対応している。	AB 100%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	どのような相談ごとがあったか ・学習面…宿題が分からず時間がかかることがある。 ・友達関係…嫌なことをされている。 ・家族のこと ・その他（朝ご飯を食べられない。）	◎すぐに対応でき、話を聞いた後「話してよかったです。」と言われた。 ◎身体上、配慮が必要な児童については電話及び面談を行い学校生活や行事への参加について検討することができた。 ・今後もお互いに情報交換をしながら取り組む。
19	学校は、施設・設備の整備に努め、学校安全や環境美化に努めている。	AB 100%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	交通安全教室・安全点検・自問清掃等 清掃の際には、教師も一緒に清掃を行った。	◎校務員さんやスクールサポートさんが環境整備をしてくれるので、有難い。 ◎子どもの中にも、自分からゴミを拾ったり、虫をとったりしてくれる子がいる。 ◎掃除中、会話をしている児童は年々少なくなっている。反省時、お互いの良いところを伝えあう児童もいた。 ◎上学年の児童が、リーダーとなり、清掃活動に取り組んでいるので、学校の中をきれいにしようとする児童が多くなる。 △自問清掃の捉え方に個人差がある。
20	「報告・連絡・相談」を徹底を図り、協働的に課題解決に取り組んでいる。	AB 100%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	報告・連絡・相談の内容 保護者から相談があったこと 気になる児童について・児童会士のトラブル 研究のこと 校務分掌に関わることや学校全体に関わること、対外的なことは、必ず管理職に報告・相談・連絡をした。	◎管理職だけでなく、他の先生方も報連相ができた。 ◎管理職の理解のもと、教職員の共通理解のもとで活動できた。今後も必ずしていく。 ・今後も「ほう・れん・そう」を早めに行う。
21	学校便りや学年便り、ホームページなどを通じて、学校での教育活動の様子をわかりやすく伝えている。	AB 100%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	おたよりやホームページにのせた内容 ・学習の内容 ・活動の様子[学習や行事等] ・児童の作品 ・保護者へのお願い	◎お家の方が学校での様子の写真や子どもたちの作品紹介を楽しみにしてくださっている。 ◎学級通信に載せるために、少しでも様子がわかるような写真の撮り方を普段から意識できた。 ◎学級便りを週に1度発行し、教育活動について知らせることができた。 △後半は、学級通信の発行が滞ってしまった。 ・お便りは少し増やせるように、写真を撮る頻度を高めたい。
22	家庭読書週間、読書紹介カードなど家庭と連携しながら読書活動を推進している。 (目標1ヶ月10冊)以上	AB 100%	9月～12月までの1ヶ月の平均読書冊数 A 10冊以上 B 7冊～9冊 C 5冊～7冊 D 0～4冊		◎学級文庫に教師のおすすめの本をいれた。興味をもって読んでくれた。自分では選ばない本を読む機会になった。 ◎学級文庫をこまめに入れ替えたことで様々なジャンルの本を手取る機会が増えた。 ◎図書係が有効に働いている。 △個人差が大きい。
23	保護者や地域と連携を図り、PTA活動や教育活動を行っている。	AB 100%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	どのようなことで連携が図れたか 学習発表会や久田船長碑前祭で地域と連携を図られた 入学説明会で直接保護者に現状について話すことができた。 2学期中に全学年で保健指導を実施した。 保護者にかけ算の九九を行っていることを、学級便りを通して知らせ、声かけをしてもらった。 ・生活科の「ひろがるえがお」でお手伝いを考え、実行した際に、保護者に協力を求めたこと。	◎マラソン大会では、保護者や地域の方々の協力のおかげで無事に走る事ができた。 ◎運営上の課題もあったが、親子行事はタイムリーな内容で、保護者が積極的に動くことができた。 ◎かけ算九九を全員すらすらに言えるようになった。 ◎生活科の学習では、お家の人から感想や見守りなど、たくさん協力いただいた。

24	地域の素材をもとに学習活動を行ったり、地域の人材を活用したりして「ふるさと教育」を積極的に展開している。	AB 100%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	活用した地域素材〔人・もの・自然〕 ・人（徳田さん 角さん 鍋谷さん 里海研究所：浦田さん 見守り隊：石田さん） ・もの（伝統工芸） ・自然（海 植物 鶴川の町） ・施設（公民館）	◎児童があまり知らないこと、興味のあることを学ぶことができた。 ◎児童は、地域の方と関わることで、地域の良さを実感することができた。また、コミュニケーション力も上がった。 △道徳においてゲストティーチャーを活用しなかった。
25	服務規律を遵守し児童や保護者・地域に信頼されるように努めている。	AB 100%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	・外に出たら、教育公務員であることを常に意識して行動	◎あいさつの仕方や言葉使いを意識した。 ◎凡事徹底を心がけている。 ・信頼されるように今後も意識して行動する。
26	校内研修や授業研究などを通して授業力の向上を図っている。	AB 100%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	授業の中で意識、改善したこと 児童の実態、既習の定着度などから授業を考えること 全員が授業に参加できるようにすること 問い返して児童の思考が深まっていくようにすること 違いや共通点、資料から読み取れることを特に意識して授業を行った。 ペア活動や児童が話す場を増やす	◎ねらいにせまるための問い返しを意識することができた。 ◎その授業で習得させたい学習内容の定着が図れた。今後も1単位時間の授業を大切にしていこう。 △ねらい達成のため問い返しをしようとするあまり、教師主導の授業展開になることがあった。 △定着、練習のための時間を確保できるようにタイムマネジメントを意識する。 △一問一答になることが多かった。
27	校務分掌の提案など、本質・再構築・変容を意識して取り組んでいる。	AB 100%	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	変容を意識した提案や取り組み マラソン大会 図書関係 研究や人権週間 情報教育・道徳教育	◎児童の投票によって、新しく買う本を決めたことで貸し出し数が少しだけ増えた。 ◎児童の健康課題について他の職員と共有できるよう生活リズムアンケートを実施し、保健指導につなげた。 ◎職員会議での提案は、昨年の反省をもとに提案をしている。 ◎みなさんに素早くわかりやすい提案ができるように努めた。 △図書委員への連絡等をクラスルームで行ったが、観る習慣がついておらず、うまくいかない面もあった。
28	業務改善に努め、最終退校時間（19時）を守るようにしている。	AB 86%	A できた B ほぼできた C あまりできなかった D できなかった	時間を要した業務内容 教材研究 プリントやドリルの丸付け 学期末の仕事 通知表	◎週単位で計画を立てて、優先順位を立てて取り組んでいる。 ◎大体見通しを持って進めることができた。 ◎優先順位を考え、締め切りのあるものは早めに取りかかり、勤務時間内に実施できるようにした。 △一つの仕事に時間がかかりすぎて、職員会議案など〆切があるものがぎりぎりになってしまう事もあった。 △意識はしているが、たくさんの方があり過ぎて難しい。取捨選択がうまくできるように努めたい。 △校務分掌が多いので、ノートや家庭学習の丸付けや教材研究に取りかかる時間が遅くなってしまった。 △丸付け・教材研究は持ち帰ることも多い。